

「低圧進相コンデンサ」の火災に注意



設置状況



焼損したコンデンサ

低圧進相コンデンサから出火する火災事例があります。発生時期は梅雨の季節から夏場にかけて多発し、出火原因のほとんどが長期使用に伴う絶縁劣化により発熱、破裂し出火に至ります。

低圧進相コンデンサとは、電圧200V～600Vで受電している工場や飲食店、農業用倉庫などでモータが稼働する設備や店舗の業務用機械の消費電力を抑える機器として1940年（昭和15年）頃から設置されています。

特に昭和50年（1975年）以前に製造された製品は保安装置が内蔵されていないため出火に至る危険性があります。設置から年数が経過しているものは、専門業者の点検を受け、必要に応じて交換することを推奨します。